



# 令和5年度事業計画

社会福祉法人 宇治福祉園

# 法人理念:いのちを大切にすること ～日常的なしあわせから恒久平和を展望・創造する～

いのちを大切にすることとは、あらゆる主義・主張・立場を超え、すべての人間に共通して重要なことである。激動と混沌、価値観の多様化した今日こそ、すべての人間に共有できる〈この一点〉に焦点をしぼり、これを現代を生きる人間のあり方の指針としなければならないと考える。

一人一人が、〈自分のいのちを大切にするために、まず目の前にいる人々のいのちを大切にすること〉とともに〈立場の異なる人、遠く離れた人、さまざまに生きる人々のいのちを大切にすること〉さらに、〈人間の生命をもたらしている多様な生命体及び地球のいのちを大切にすること〉よう心がけること、これが真にいのちを大切にすることの具体的なあり方、生活態度の第一歩であるといっておく。

ところで、こうした考え方、人間としての生き方は乳幼児の頃からやがてゆかなければ本ものとはなりがたい。これが乳幼児保育への取り組みにあたっての切々たる問題意識である。乳幼児保育は現代社会における最も重要な課題として、抜本的な検討と適切な対応が迫られている。この現実課題への具体的対応において、すべての子どもが〈いのちを大切にし、お互いに相手の立場を理解する人間〉〈日常的な幸せから恒久平和を展望・創造する人間〉へと成長することを目標にした、新しい保育実践を展開する拠点として宇治福祉園はその探究に邁進する。

乳幼児教育・保育・福祉の営みを通して、こどもと大人の誰もがこれからの人生をいかに生きてゆくべきかを問いつづけ、一回限りの人生から〈永久のみんなのき〉を生きるための方途をともに学び合うことをあわせ目的とするものである。

# 宇治福祉園の沿革

- 社会福祉法人「宇治福祉園」は昭和48年に国の認可を受け、宇治三室戸の地に産声を上げました。「いのちを大切にすること」という法人の理念のもと、人間的で共生感を大切に作るやさしい事業の実施を志しています。
- 現在、幼保連携型認定こども園、保育園、放課後児童健全育成事業、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業、保育所等訪問支援事業、相談支援事業、地域子育て拠点事業、宇治市ファミリーサポートセンター事業などの乳幼児教育・福祉事業に加え、子ども食堂や居場所づくり事業など、社会福祉法人の使命として地域公益事業に取り組んでいます。
- 役職員一同、保護者・地域・行政・関係各位のみなさんと手を携えて、子どもの豊かな育ちと子どもを中心とした教育・福祉風土の醸成に努めていきたいと考えています。

昭和48年	社会福祉法人の認可を受け「三室戸保育園」設立
昭和50年	宇治市心身障害児母子通園施設「子どもの生活クリニック」開設 (現 児童発達支援事業)
平成15年	JR宇治駅前ゆめりあうじに「Hana花保育園」開設
平成19年	「三室戸保育園木幡分園さんりん舎」開設
平成25年	「みんなのき保育園」開設
平成28年	「三室戸保育園」が 「幼保連携型認定こども園みんなのき三室戸こども園」 「みんなのき保育園」が 「幼保連携型こども園みんなのき黄檗こども園」 「三室戸保育園木幡分園」が「黄檗こども園分園」へ移行
平成29年	三室戸に「放課後等デイサービス みんなのき とわ」開設 三室戸・黄檗こども園に学童クラブ「みんなのき倶楽部」開設
平成30年	宇治に「放課後等デイサービス みんなのき ゆう」開設 社会公益事業拠点TeaMU開設 子ども食堂開始
令和2年	宇治市ファミリー・サポート・センター事業ならびに宇治市子育て支援拠点事業「げんきひろば」受託
令和3年	京田辺市に、幼保連携型認定こども園「みんなのき三山木こども園」・児童発達支援 「みんなのきねーね」・放課後児童健全育成事業の複合施設設立。 「Hana花保育園」を「みんなのきHana保育園」へ名称変更



# 障がい福祉事業

児童発達支援  
事業所  
三室戸 定員10名/日  
三山木 定員10名/日

相談支援事業所

放課後等  
デイサービス  
とわ 定員10名/日  
ゆう 定員10名/日

保育所等  
訪問支援  
事業所

卒園児支援  
ひなたぼっこ

みんなのき  
三山木  
こども園  
定員96名

みんなのき  
三室戸  
こども園  
定員215名

放課後児童  
健全育成事業  
みんなのき倶楽部  
三室戸・黄檗・三山木

第2園庭  
かっぱらんど  
(南部小前)

未入園児  
一時保育事業  
育児相談

地域創生事業  
こらぶれーしょん

# 社会公益事業

# 児童福祉・幼児教育事業

みんなのき  
Hana保育園  
定員60名

みんなのき  
黄檗  
こども園  
定員165名

みんなのき  
黄檗こども園分園  
定員40名

# 活動拠点

笠取自然  
体験の家

みんなのきー  
すてーしょん  
TeaMU  
茶室

宇治市ファミリー  
サポートセンター事業

きょうと  
こどもの城  
子ども食堂

宇治市地域  
子育て支援拠点事業  
げんきひろば

# 子育て支援事業

宇治福祉園  
1973年設立



# I. 令和5年度事業推進の基本的な考え方

『いのちを大切にする』法人の理念をもとに、策定した宇治福祉園の第二次中長期計画の基本理念である『「みんなのき」を生かして日常の幸せを創造してゆく』の実現に向けて、計画で示した使命や情景、重点項目事業に基づき事業を推進してゆきます。

- 三室戸こども園、Hana保育園⇒0歳児の確保または定員減による人員の削減により安定経営を目指す。定員定額制などの予算対策を行い必要経費の確保に努める。
- 三山木3事業⇒今年度は3事業計で約100万円の赤字(昨年度は約1700万円の赤字)にとどまり、安定的な経営に近づいている。ただし、業務分担や各費目間案分の適正化と障害児保育費などの未整備な制度についての予対活動が急務である。
- 今後成長が望まれる放課後等デイサービス事業について運営方針の適正化を図るとともに、良質なサービスの提供に資する人員配置ならびに環境整備に努める。
- 本来事業と社会公益事業、50周年記念事業、広報活動が相補的かつ相乗的効果をもたらすよう、計画的に推進する。
- 業務の効率化、生産性の向上により、労働環境の向上に努める。また、老朽化が進む「児童発達支援事業所みんなのきしゅしゅ」の改築・修繕に向けて準備を行う。

# 重点事業 I

## 【経営基盤の強化：安定的運営に向けた各事業の改善・連携・協働】

- 各事業区分の収支と法人全体の仕事にかかわる業務分担、職員配置の改善
  - 支出チェック体制の強化と物価高騰ならびに無駄な経費削減への対応
  - さまざまな補助事業や制度の活用ならびに必要なかつ正当性の高い予算対策活動の推進
  - 非常勤職員及び多様な人材の確保と適切な人員体制・マネジメント
- ① 京田辺市の事業が3年目となり、定員に近い園児数が見込まれるものの、障がい児保育の受け入れに対する市の制度が未整備なため職員の適正配置が困難である。ひきつづき市へは障がい児の受け入れと連動する加配保育者制度を公立保育所同様に行えるよう要望する。また、制度が異なる3事業が協働し、一体的運営の工夫をしながら人件費率並びに各費目間の案分比率を適宜改善する。
  - ② 中宇治地域における園児の確保、特に0歳児の確保が急務である。昨年度に引き続き子育て支援拠点や園見学などにより、地域貢献に努めるとともに、教育・保育の質・内容の効果的な発信に努める。また50周年記念事業に合わせ合理的かつ質の良い情報提供についても検討を加え、積極的に実施する。
  - ③ 宇治市及び京田辺市の子育て関連計画及び障害児・者福祉計画などから地域ニーズ分析を行い、必要な事業及び機能について「ファミリー・サポート・センター」「元気ひろば」「自然体験の家」などの独自のリソースを有効活用する。

## 重点事業Ⅱ

### 【良質な教育・保育・福祉の探究と魅力ある職場、広報、人材確保・育成】

- 子どもと保護者のウェルビーイングと一人一人の職員のウェルビーイングを共創・協奏する実践の探究と職場風土の醸成
  - これまでの実践研究ならびに実践計画や記録を活かした広報の開発、50周年事業の展開
  - 保育者プラス $\alpha$ を視野に入れた多様な人材確保・連携・協働と教育・保育・福祉の提供
  - 生活状況、意向に応じた適正な業務・処遇改善の推進
- ① 令和4年度は新たに14名の新規採用職員を得ることができ、ほぼ希望通りの人員配置が行えた。「生命を大切にす」法人理念を具現化する教育・福祉実践に相応しい人材に恵まれた。今後は職員増・規模の拡大に伴う人材育成が急務であるが、何よりも宇治福祉園のマインドを大切に日々の実践のプロセスを通じてリーダー、ミドル・リーダーの育成を目指す。
  - ② 法人理念が志す職員像の探究と合わせて、一人一人の職員の意向や特性を活かし、育み合いながら業務内容及び業務分担の改善を行う。また、そのセンスや考え方、認知についての差異やズレがあることは自然なものとして相互受容しつつも、それらを生かし合う風土づくりを目指す。
  - ③ 休日・休暇の充実、労働時間の短縮と自由かつ自主的な活動の確保の両立を目指すとともに、それらを可能にする業務の見直しに努める。



## 重点事業Ⅲ

# 【「生命を大切にする」という法人理念から日常的な幸せの創造とともに、恒久平和の実現を志す教育・保育の原則及びスタイルを探究】

### ① 養護を根本にした乳幼児教育・保育とESD

養護（ケア）は愛の循環：誰もが受け容れられ、居心地の良い土壌で生き生きとした生を芽吹いてゆく

『子どもは小さくても人間なのだから最初から心を込めて扱わねばならないし、まだ頼りない人間であるから何よりも安全を実感させてやるのが大切である。子どもは自分が安全に護られている、愛されていると感じるとき、無邪気に外に向かって動き出す（養護の役割）。』

### ② 環境を通した乳幼児教育・保育とESD

環境は生命の循環・動的平衡：誰もが環境に生かされ、環境を生きている。「自然の勢い」や「偶然」に起きるコト。子どもや保育者が環境にかかわり起こすコトやモノ。人間の原点にあるセンス・オブ・ワンダー。

『真の学びとは自分が出会うべきことを見つけること。土が泥団子に、リサイクル素材がダンゴムシの家に、段ボールや草木で染めた布がこいのぼりや昆虫・自分たちの部屋に、栽培した野菜が料理に、藍の種が藍染Tシャツに、子どもの歓びや思い、意味をのせて変身してゆく。「自然の勢い」や「多様な生命体」のお陰で「時熟」に気づかされる。すぐ目の前にある、与えられた、持ち越されてきた環境のもとで自らの歴史を作る。それらを実現する環境と生命の循環を学び、それらへの愛情を育んでゆく。』

※全国私立保育園連盟保育・子育て総合研究機構研究企画委員として、滋賀大学准教授の山本一成氏と「Life（生活、人生、生命）を深める保育実践理論の探究」をテーマにフィールドの提供や研究協力を行う。



## 重点事業Ⅳ

# 【保育を科学的・多面的にサポート・推進するシステム及び子育て支援に関するシステムの開発及び新規ツールの活用】

良質な教育・保育の条件とは何か、そのために必要な教育・保育指導計画や子どもの育ち・活動記録等について焦点を絞り、誰もが質の高い教育・保育実践へ貢献していくことができるよう努める。また、ファミリー・サポート・センター事業の援助会員と依頼会員のマッチングシステムの早期運用に向けた取り組みを推進する。

- ① 保育の可視化、保育計画・記録・マニュアルの作成・更新・改善に努める。また、記録者の立場からの意見を反映するとともに、それらの要望の理由及び効果・目的について丁寧に聴取し、人材確保、人材育成、共同研究、ホーム・ページ、ソーシャルメディアの充実などに活かしていく。
- ② 第三者評価の活用及びICT戦略と業務の改善、職場環境及び教育・保育環境の充実を図る。
  - ▶ 京都介護・福祉第三者評価調査者の資格を有するスタッフが10名を超えたことを受け、評価事業を視野に入れた今後の展開を模索する。
  - ▶ 写真・動画と短いコメントで1年を振り返る「童心の四季」及び児童発達支援事業におけるドキュメンテーションを作成し、年間指導計画や実践研究素材として活用してきた。自然や社会などの環境にプラスして出現・生起する偶然のデキゴト及び環境に誘われ、好奇心を膨らませ、かかわり、意味づけ、楽しんでいく「子どもの姿」とその姿と連動して現れてくる「新たな保育環境」などとの関係、そこで綴られていく保育の物語の文脈及び背景、価値についての言語化・可視化の方法について探究し、その一助としてのシステム開発への提案を行っていく。

## 重点事業Ⅴ

### 【子どもを真ん中にした地域公益活動・地域コミュニティの再生】

宇治市子ども・子育て支援計画、UDCU、京都府子どもの城事業、京都府社会福祉経営者協議会京都地域福祉創生事業と連携・協働のもと、拡張する学習を念頭に置きながら、地域公益活動に努め、可能性を模索する。

- ① 若年層が住みたくなる中長期的なまちづくりへの展望のもと、関係機関・団体と連携・協働しながら、新たなニーズの創出に向かう事業を試行・実施する。
- ② 居場所づくり事業・遊び場所提供事業・・・「みんなのきへ遊びにおいDay」はウィズコロナにおける通常開催のあり方を模索する。また、ファミリーサポートセンター・げんき広場など他の事業と連携しながら、宇治福祉園全体の事業内容の発信に努め、ニーズに応じた適切なサービスの提供に繋げる。
- ③ 子ども食堂は、子どもだけで訪れることができるよう日・祝日の開催も視野に入れて行う。平日は、惣菜提供に加え、地域のイベント等への出店や栄養士と協働した新たな献立の試行錯誤など、子どもの福祉拠点ならではの運営に努める。
- ④ 「宇治市子ども・子育て会議、(仮称)宇治市乳幼児教育・保育支援センター、宇治市健康・食育アライアンス会議、宇治市障がい児・者計画推進会議、宇治市早期療育ネットワーク会議」などの各種会議の委員としてスタッフを派遣し、地域のまちづくりに貢献・参画する。

## 重点事業VI

### 【創立50周年事業…子ども・保護者・関係者位への感謝に代えて】

これまでの資料整理を行い効率的な作成を心がけ、費用を抑えるとともに、今後の事業展開につながるコンテンツを吟味する

- 50周年記念誌の作成・出版(オリジナルの楽曲、絵画、文章、写真などを素材に宇治福祉園ならではの内容・構成にする)
- 鍵盤ハーモニカ譜の作成・出版
- TeaM Uや各拠点での子ども食堂・サロン・遊びにおいDayなどの活動に合わせて、来園者の動画を撮影。Web同窓会などの事業を実施する。
- LINE公式アカウントを作成。後援会を立ち上げ、広報及び出会いと再会の契機とする。
- 寄付を募るなど、資金調達策を講じる。